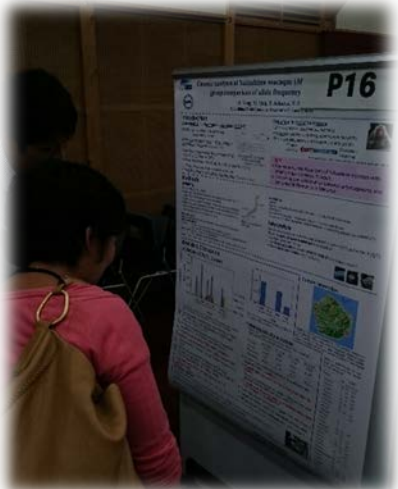


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 29 日	
所属部局・職	京都大学理学研究科・修士課程学生
氏名	櫻井貴之

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
日本, 京都大学	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
ゲノム実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 26 年 5 月 22 日 ~ 平成 26 年 5 月 26 日 (5 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター, 村山美穂教授	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)	
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習で、私たちはヤクザルの糞から採取した DNA を用いて、その糞を落とした個体の性判別と COMT (catechol-O-methyltransferase) 遺伝子のジェノタイピングをした。実習の目的は、糞から採取した DNA の解析方法を学ぶことであって、手法自体は自身の研究でもよく使うものが多かったものの、比較的きれいな DNA を用いて実験をする普段とは勝手が違い、新鮮な経験だった。</p> <p>性判別の実験では、X 染色体由来の DNA バンドがうまく現れなかったため、実験がうまくいかなかった。これは糞から採取した DNA サンプルがきれいではなかったため、十分量なかったため、といった理由が考えられる。コントロールとして、雌雄の分かっているサルの血液から採取した DNA サンプルを使った際、そのバンドは明確なバンドを示した。糞から採取した DNA を用いることの難しさを実感した。</p> <p>COMT 遺伝子のジェノタイピング実験では、多くのサンプルの解析に成功した。得られたデータ中に先行研究で報告されたことと異なる結果がいくつか存在した。Intron 領域の SNP に遺伝子型 TT が存在したことや金華山のサルのサンプルに他より多くの塩基 T が見られたことなどである。今回の実習では PCR を 2 回しかしていないのでデータの信頼性が足りないが、よりサンプルを増やし、かつ反復して実験をすれば興味深い結果が得られるのではないかと感じた。</p>	
	
↑ ポスターセッションの様子	
6. その他 (特記事項など)	
<p>今回の屋久島実習に参加するにあたり、ご支援いただいた PWS に心より感謝申し上げます。またお世話になりました村山先生、佐藤さん、小林さん、そして共に実習に参加したみなさんにも感謝申し上げます。</p>	